

セントウルステークス・スプリンターズステークス 出走予定外国馬プロフィール

➤ ファストネットワーク (FAST NETWORK、漢字表記：舉歩生風) = 香港

せん6歳・鹿毛 (ニュージーランド産・2020年9月9日生まれ)

父：Wrote = 母：Alberta (母の父：Magic Albert)

馬主：ホンヤウ・ン

調教師：チョーホン・イブ

騎手：ダミアン・レーン

戦績：全20戦7勝、2着1回、3着4回

総獲得賞金：約3億9,930万円

主な戦績：'25 ナショナルデーカップ (G3) 1着
'26 センテナリースプリントカップ (G1) 3着
'25 香港スプリント (G1) 3着

ニュージーランド産のファストネットワークは、2022年3月のカラカセールにおいて3万ニュージーランドドル(当時約240万円)でウェックスフォードステーブルズに落札され、同国のランス・オサリバン&アンドリュー・スコット厩舎で調教を施された後、香港に運ばれてチョーホン・イブ厩舎の所属馬となりました。

アイルランド産の父ロウトはサドラーズウェルズ系ハイシャパラルの直仔で、エイダン・オブライエン厩舎で2歳時の2011年にブリーダーズカップジュベナイルターフ(米・チャーチルダウンズ、G1、1,600m)を優勝、4歳で移籍したアメリカで引退後に種牡馬入りし、2017年からはニュージーランドで供用されました。本馬以外の主な産駒にニュージーランドオークスを制したパルクリチューディナスがいます。母アルバータ(父マジックアルバート)はニュージーランドで1戦して未勝利で繁殖に上がり、ファストネットワークはその3番仔。近親からはアメリカでセクレタリアトステークスを勝ったガジヤ、オーストラリアでともにシャンパンステークスを制したキャリアオンキューティー、ザミッシンといったG1ウイナーが出ています。

ファストネットワークのデビューは3歳シーズン終盤の2024年6月で、シャティン競馬場で行われた直線芝1,000mのクラス4ハンデ戦をザカリー・パートン騎手騎乗で3番手から残り150mで抜け出して1馬身半差で快勝し、幸先の良いスタートを切りました。このシーズンはこの1戦のみでしたが、以降は全てシャティン競馬場の芝のレースに出走しています。

続く4歳の2024/2025年シーズンも最初の4戦は1,000m戦を使われて、9月のクラス4ハンデ戦をトップハンデながら3番手から1馬身半、11月のクラス3ハンデ戦を8番手から4馬身半差し切って勝利。ミンファイ・プーン騎手に替わった12月のクラス2ハンデ戦で初の1,200mに出走して4着とすると、年明け1月のクラス3ハンデ戦ではさらに距離を1,600mに伸ばし、パートン騎手に戻ったここは4、5番手から直線で一旦は先頭に立つ見せ場を作って僅差の3着に好走しました。

こうして4歳シリーズ初戦の香港クラシックマイル(1,600m)に駒を進めて、クリストフ・スミヨン騎手で4番人気に推されると中団からよく伸びましたが、ゴール前で他馬と接触するシーンもあり、マイウィッシュ(今年のチャンピオンズマイル優勝)から1馬身半差の4着で入線しました。次いで3月のクラス3ハンデ戦で1,200mに戻ると、ジェームズ・マクドナルド騎手で上がり32秒66で後方から差し切り勝ち、さらに4週後のクラス2ハンデ戦(1,200m)ではヒュ

一・ボウマン騎手で最後方から残り 200m で先頭に立って後続を 4 馬身離して連勝。この 2 戦はともにトップハンデでした。続く 5 月のクラス 2 ハンデ戦(1,200m)は直線で二度接触もあり 5 着に敗退、その後、喉頭蓋エントラップメントと診断されて手術を受け、シーズンを 10 戦 4 勝、3 着 2 回で終わりました。

5 歳となった 2025/2026 年シーズンは 9 月のクラス 2 ハンデ戦(1,400m)で始動、パートン騎手で 2 番手につける積極策を取って残り 300m で先頭に立ちましたが、最後の 100m で外にヨレて他馬と接触して 4 着まで。次いで翌 10 月のナショナルデーカップで 8 戦ぶりに 1,000m 戦に出走、アレクシ・バデル騎手で最内枠から序盤は後方 2 番手につけると、徐々に進出して残り 200m で先頭に立ち、最後はレイジングブリザードの追撃をクビ差封じて重賞初挑戦初勝利を達成しました。

その後も重賞戦線を進み、同月のプレミアボウル(G2、1,200m)は後方から 6 着まで、次いでマクドナルド騎手と臨んだ 11 月の香ジョッキークラブスプリント(同)は 5 番手から初対戦となったカーインライジングを追いしましたが、後続には 1 馬身 3/4 差をつけたものの、同馬から 2 馬身 3/4 差の 2 着。初 G1 となった 12 月の香港スプリント(1,200m)は 4 番人気での出走となり、カーインライジングの背後の 4 番手から直線で 2 番手に上がりましたが、ゴール前でレイジングブリザードにかわされて勝馬から 4 馬身半差の 3 着でした。

2026 年に入り 1 月のセンテナリースプリントカップ(G1、1,200m)は 7 頭立ての 6 番手から前に迫るものの、勝ったカーインライジング、2 着のヘリオスエクスプレスにはそれぞれ 3 馬身 1/4、2 馬身差及ばず 3 着。ここは 2 番人気でした。その後、トップハンデ(タイ)となった 3 月のクラス 1 ハンデ戦、エセックスハンデキャップ(1,200m)はパートン騎手に手綱が戻り、6 番手から直線で進路が塞がる場面もありましたが、残り 100m できっちりと抜け出して格の違いを見せ、人気に応えました。

陣営はこの一戦を足掛かりにドバイのアルクオーツスプリントへの遠征を企図していましたが、中東情勢によりこれを断念。代わりに 4 月 6 日のチェアマンズトロフィー(G2、1,600m)に矛先を向けました。下旬の香港チャンピオンズデーでのレース選択を見据えて、昨年の香港クラシックマイル以来となる 1,600m 戦となりましたが、向かい風を考慮して後方の内に位置取り、直線半ばで外に持ち出されたものの伸び切れずに 5 着でレースを終えました。再び 1,200m 戦に舵を切って迎えたチェアマンズスプリントプライズ(G1、1,200m)はマクドナルド騎手で 4 番人気となり、8 頭立ての 6 番手から直線では外のサトルレーヴを追うように伸びますが、最後は伸びを欠いて勝馬から 5 馬身 3/4 差の 4 着となりました。

ファストネットワークはここまで 20 戦して G3・1 勝を含む 7 勝、2 着 1 回、3 着 4 回。稍重で 2 戦(1 勝)した以外は全て良馬場でのレースで、重・不良馬場の経験はありません。直線での 6 戦 4 勝、3 着 1 回に対し、右回りでは 14 戦 3 勝、2 着 1 回、3 着 3 回。芝の 1,200m では 10 戦 3 勝、2 着 1 回、3 着 2 回。持ち時計は昨年 11 月の香ジョッキークラブスプリント 2 着時の 1 分 7 秒 78(良)。現時点の香港ジョッキークラブによるレーティングは 121 で、カーインライジング(142)、ロマンチックウォリアー(139)、ヴォイッジバブル(128)、マイウィッシュ(124)、ラッキースワイネス(123)に次ぐ 6 番目の評価となっています。

前走チェアマンズスプリントプライズ後は従化競馬場に移ってシーズンの疲れを癒し、7 月下旬から来日に向けて調整を本格化させています。従化で追い切りを 2 本消化後、8 月に入ってからシャティンに戻って追い切りを 6 本こなし、8 月 21 日にはバリアトライアル(AW1,200m)で後方から 4 位で入線、タイムは 1 分 12 秒 44 でした。

セントウルステークス 出走予定外国馬関係者プロフィール

▶ ファストネットワーク (FAST NETWORK)

● 馬主：ホンヤウ・ン (Hung Yau Ng / 漢字表記：吳鴻有)

会社経営者。これまでに共有名義を含めて数頭を保有し、本馬の他に今後デビュー予定のニュージーランド産馬をイプ厩舎に預託しています。ニュージーランド産の本馬が昨年のナショナルデーカップを制したことが評価され、ニュージーランド・ブラッドストック社が創設した「香港スター・ニュージーランド競馬賞」を受賞しています。

● 調教師：チョーホン・イプ (Chor Hong “Dennis” Yip / 漢字表記：葉楚航)

1967年7月28日生まれ。競馬とは無縁の家庭に育ちましたが、香港ジョッキークラブの騎手学校に入学。1993年に引退するまで騎手として計59勝を挙げました。その後、名調教師ベンチー・“ブライアン”・カンの下でアシスタントトレーナーとなり、ニュージーランドでの研修を経て、勇退する同師の厩舎を引き継ぐ形で2002/2003年シーズンに調教師ライセンスを取得しました。

自身の厩舎を開業してからはコンスタントに毎シーズン30勝以上を積み重ね、2012/2013年シーズンには69勝を挙げ、最終日までもつれた熾烈なリーディング争いを制してチャンピオントレーナーとなりました。前シーズンとなる2025/2026年は22勝に留まりましたが、香港通算900勝を目前にしています。これまでの主な管理馬に2013年ボヒニアスプリントトロフィーなど短距離重賞2勝のゴーベイビーゴー、2016年にG2ジョッキークラブカップを勝ち、続くG1香港カップで2着だったシークレットウェポン、2024年香港ダービー馬マッシュヴソヴリンなど。また、マカオでもホースオブフォーチュンでローカルG1のマカオ香港トロフィーを制しています。

今回のセントウルステークスが管理馬の日本初出走となります。

● 騎手：ダミアン・レーン (Damian Lane)

1994年2月6日生まれ、西オーストラリア州南西部に位置するバンバリー出身。元騎手で調教師だった父の厩舎の見習いとして2009年にデビューし、2009/2010年シーズンに西オーストラリア州で見習いトップとなる83勝を挙げると、翌シーズン途中にヴィクトリア州メルボルンに拠点を移しました。初G1は2014年サールパートクラークステークス(トラストインアガスト)。2015/2016年シーズン以降は同地区のリーディングで10位圏内を維持し、2023/2024年に88勝を挙げて初のチャンピオンタイトルを獲得しました。前2025/2026年シーズンはG1・3勝を含む200戦33勝でリーディング7位。

これまでにATCオーストラリアンダービー(2017年ジョンズノー、2025年アエリアナ)、VRCオークス(2018年アリスティア、2024年トレジャーザモーメント)、ゴールドেনスリッパ(2019年キアミチ、2025年マルフーナ)、ATCオーストラリアンオークス(2022年エルペイトロネス、2023年ペニーウェカ、2025年トレジャーザモーメント)など、オーストラリアでG1を37勝。この中には日本馬のメールドグラスによる2019年コーフィールドカップ、リスグラシューによる同年のコックスプレートも含まれます。

日本では2019年に短期免許を取得以降、2021年を除いて毎年騎乗し、ここまでのJRA通算成績は重賞20勝を含む915戦209勝で、G1は2019年の宝塚記念・有馬記念(リスグラシュー)、2023年日本ダービー(タスティエーラ)、2025年天皇賞(春)(ヘデントール)、今年のNHKマイルカップ(ロデオドライブ)など7勝。2回目の出場となった先日のワールドオールスタージョッキーズでは総合3位でした。